

# 第5回 神代川かわまちづくり推進協議会 神代川かわまちづくり八百万神の会

## 第4回 ワークショップ 資料

1. これまでの経緯・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 1
2. ワークショップの進め方について・・・・・・・・ P. 3
3. ワークショップの結果整理・・・・・・・・・・ P. 4
4. 委員会での指摘事項について・・・・・・・・ P. 5
  - ①石積み護岸への変更による河川幅の影響について・・ P. 6
  - ②天真名井の水量確保について・・・・・・・・ P. 9
  - ③細部の条件確認について・・・・・・・・ P. 10
  - ④町道の整備方針について・・・・・・・・ P. 12

平成27年1月19日(月)

# 1. これまでの経緯

## ○神代川かわまちづくり検討委員会・検討会・推進協議会の経緯

委員会・検討会 ・推進協議会	検討会名	実施日	概要
○	第1回神代川河川再生計画 検討委員会	平成23年11月22日	・河川再生計画の検討概要 ・これまでの河川再生に向けた行動 ・神代川周辺の歴史・景観資源の確認 ・現地視察
○	第2回神代川河川再生計画 検討委員会	平成24年3月9日	・第1回ワークショップ開催報告 ・小学校アンケート実施報告 ・重点課題抽出と再生目標(案)の検討 ・河川再生メニュー(案)の検討
○	第1回神代川河川再生計画 検討会 (ワキンググループ)	平成24年12月13、14日	・ワークショップ結果の報告 ・高千穂の歴史と神代川との関わりについて講話 ・高千穂町のまちづくりの報告
○	第3回神代川河川再生計画 検討委員会	平成25年7月11日	・第2回委員会及び計画検討会の課題対応 ・ワークショップ結果の報告
○	第2回神代川河川再生計画 検討会 (ワキンググループ)	平成25年7月12日	・かわまちづくり計画について
○	第4回神代川河川再生計画 検討委員会	平成25年12月20日	・かわまちづくり計画について ・これまでの課題対応状況
○	第1回神代川かわまちづくり 推進協議会	平成26年5月8日	・神代川かわまちづくり推進協議会の立ち上げ ・神代川かわまちづくり計画等の説明 ・他地区での事例紹介(桑子先生)
○	第2回神代川かわまちづくり 推進協議会 (第1回ワークショップ)	平成26年7月24日	・神代川かわまちづくり計画全体イメージの理解 ・ワークショップ名称の決定「神代川かわまちづくり 八百万の会」
○	第3回神代川かわまちづくり 推進協議会 (第2回ワークショップ)	平成26年9月26日	・大まかな河川形状や遊歩道等の整備方針を考える ・島谷先生による模型作成の指導
○	第4回神代川かわまちづくり 推進協議会 (第3回ワークショップ)	平成26年10月9日	・班別協議結果のすり合わせ ・細部のデザインについて考える ・ワークショップにおける班別の中間取りまとめ
○	第5回神代川河川再生計画 検討委員会	平成26年11月4日	・ワークショップにおける検討結果(中間)の確認 ・ワークショップにおける今後の検討内容について ・地質調査結果・水源の確保について ・今後に向けた方向性の確認
○	第5回神代川かわまちづくり 推進協議会 (第4回ワークショップ)	平成27年1月19日 (今回)	・ワークショップの結果整理 ・委員会における指摘事項 ・かわまちづくりメニューの再確認

## ○その他

■神代川に関する講演・パネルディスカッション：平成26年11月4日実施

・神戸女子大学 非常勤講師 李 春子先生

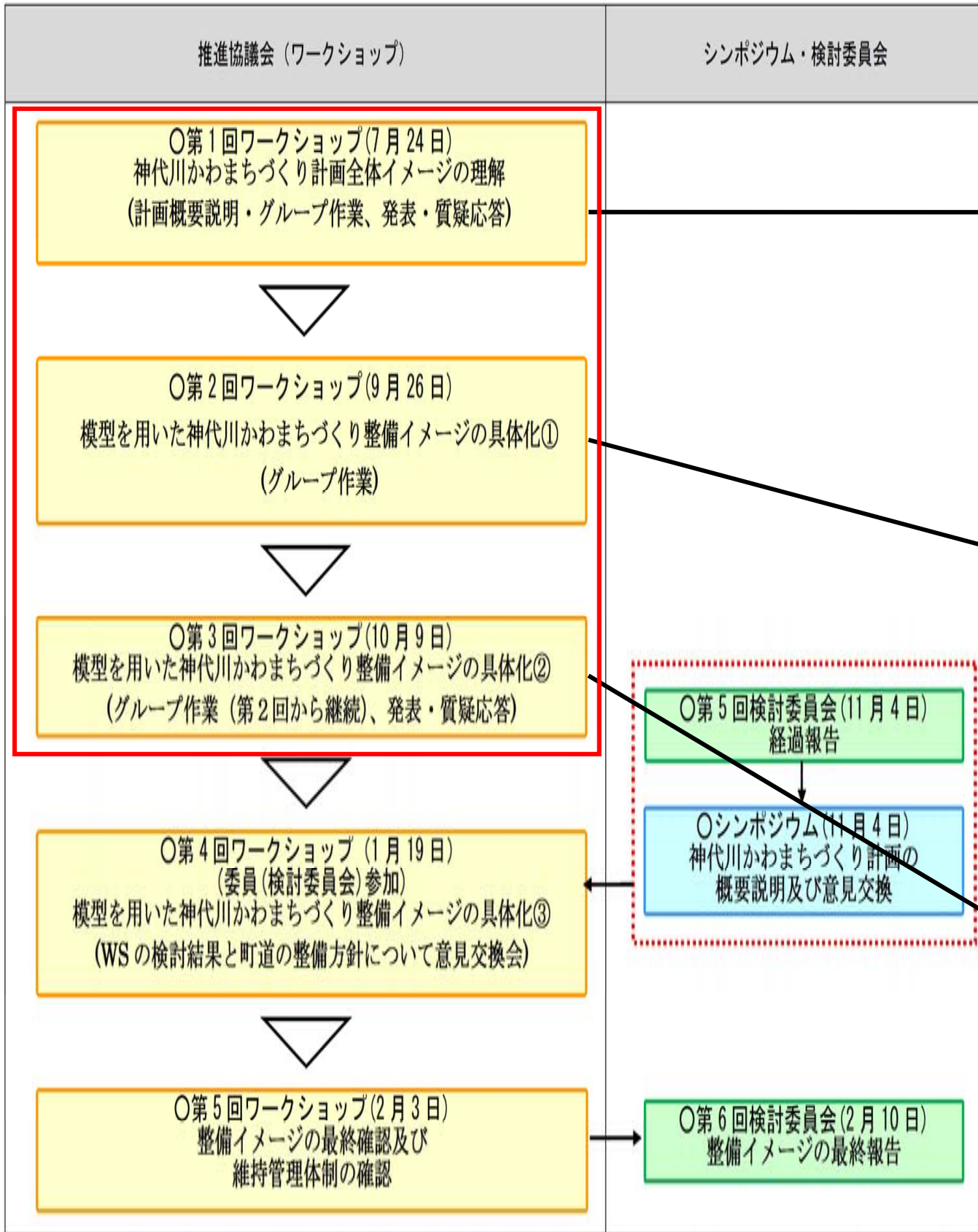
仮題:「東アジアの「水」を巡る「伝統の森」の文化の資料化」

・パネルディスカッション

(杉尾先生、桑子先生、土井先生、山口課長、後藤宮司)



○本推進協議会(ワークショップ)における検討状況



第1回ワークショップの流れ

次第	内容	所要時間
1. ワークショップの進め方	①ワークショップ全体の流れについて ②第1回ワークショップの内容について	19:00~19:10 (10分)
2. 神代川かわまちづくり計画について	①神代川かわまちづくり計画の目的 ②神代川かわまちづくり計画(対象区域、整備方針等) ③グループ作業内容の説明 ⇒グループ作業の着眼点等を説明する。	19:10~19:20 (10分)
3. グループ作業	【グループ作業】 ⇒4班程度に分かれて、各班毎に議論 2班:共通「神代川かわまちづくり計画」 各班「天真名井周辺・神々のゾーン」or 「皇子橋周辺・水辺いこいのゾーン」 2班:共通「神代川かわまちづくり計画」 各班「天真名井周辺整備」or「皇子橋周辺整備」	19:20~20:10 (50分) ①メンバー確認:5分 ②代表者決定:5分 ③グループ作業:30分 ④とりまとめ:10分
4. 発表・質疑応答	【グループ発表】 ⇒各班の代表者が発表し、それに対して質疑応答を行う。	20:10~20:50 (40分) 1班あたり 発表 5分 質疑応答 5分
5. まとめ・次回ワークショップについて	①全体整備イメージについて。 ②協議会の名称について ③第2回ワークショップについて	20:50~21:00 (10分)

第2回ワークショップの流れ

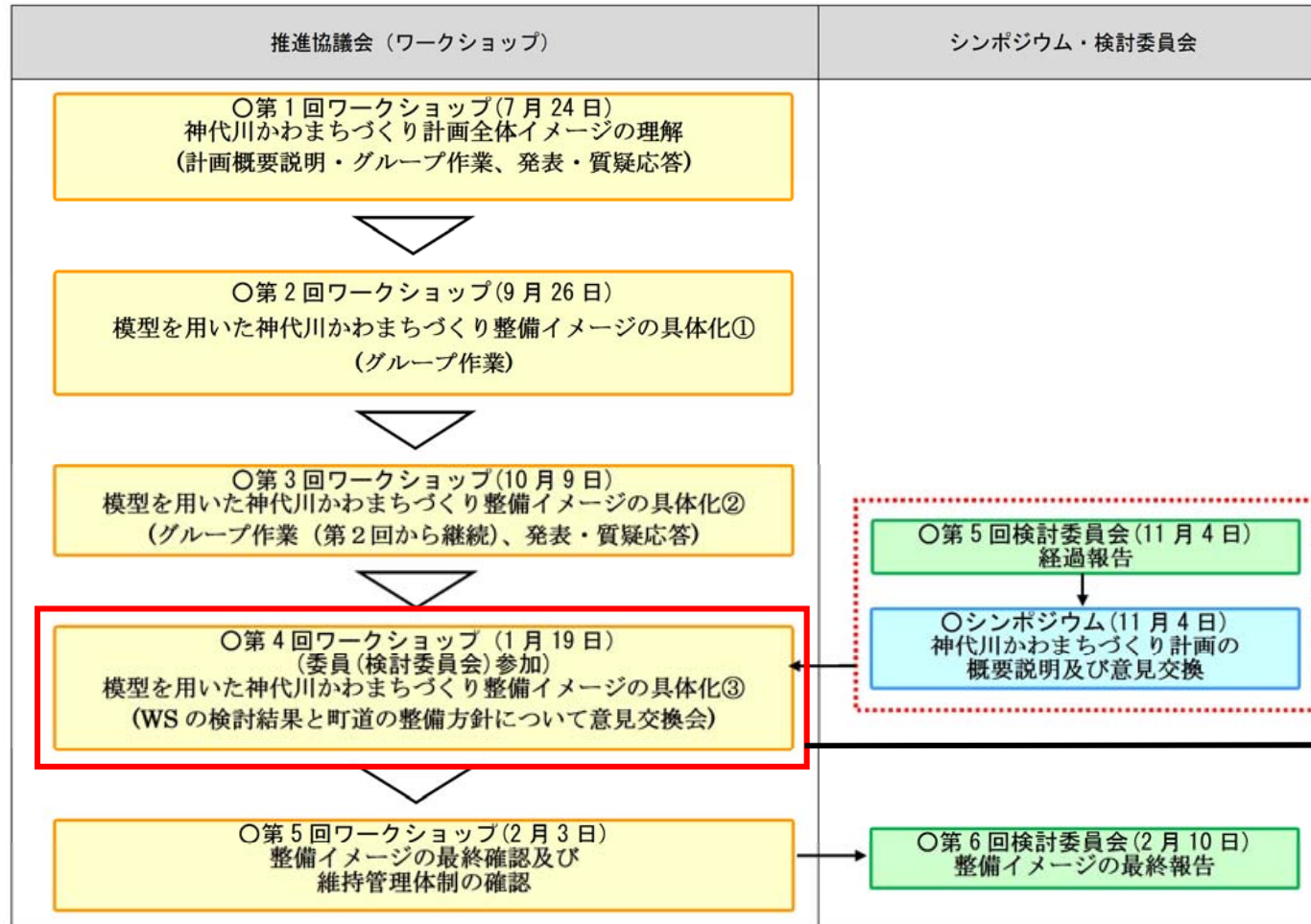
次第	内容	所要時間				
1. ワークショップの進め方	①ワークショップ全体の流れについて ②第1回ワークショップの結果について ③第2回ワークショップの内容について	19:00~19:20 (20分)				
2. グループ作業内容について	①島谷先生からのアドバイス	19:20~19:35 (15分)				
3. グループ作業	<table border="1"> <thead> <tr> <th>天真名井・皇子橋周辺</th> <th>くしふる周辺・バスセンター周辺</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①他のゾーンとの連続性 ②川の流れ ③川幅 ④管理用通路</td> <td>①他のゾーンとの連続性 ②ルート上に他の拠点施設 ③ルート設定 ④ルート整備</td> </tr> </tbody> </table>	天真名井・皇子橋周辺	くしふる周辺・バスセンター周辺	①他のゾーンとの連続性 ②川の流れ ③川幅 ④管理用通路	①他のゾーンとの連続性 ②ルート上に他の拠点施設 ③ルート設定 ④ルート整備	19:35~20:45 (70分) 1.メンバー確認:5分 2.代表者決定:5分 3.グループ作業:60分
天真名井・皇子橋周辺	くしふる周辺・バスセンター周辺					
①他のゾーンとの連続性 ②川の流れ ③川幅 ④管理用通路	①他のゾーンとの連続性 ②ルート上に他の拠点施設 ③ルート設定 ④ルート整備					
4. まとめ・次回ワークショップについて	①第3回ワークショップについて	20:45~21:00 (15分)				

第3回ワークショップの流れ

次第	内容	所要時間						
1. 挨拶・はじめに	・挨拶 ・ワークショップ全体の流れについて	19:00~19:10 (10分)						
2. グループ作業内容について	・第2回ワークショップの結果について ・第3回ワークショップの内容について ・班分け変更説明(3・4班は合同) ・第2・3回ワークショップの結果とりまとめについて	19:10~19:30 (20分)						
3. グループ作業	<table border="1"> <thead> <tr> <th>天真名井</th> <th>皇子橋周辺</th> <th>くしふる周辺 バスセンター周辺</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①ルート設定 ・河川形状、川幅 ②施設配置 ・管理用通路、川に降りる場所、広場、休憩施設 ③施設デザイン、規模等 ・護岸形状、管理用通路の幅員、広場の規模、休憩施設のデザイン ④その他 ・</td> <td>①ルート設定 ・観光施設周遊ルート、観光客の導線 ②施設配置 ・駐車場、行先案内板、施設説明板、休憩施設 ③施設デザイン、規模等 ・駐車場の規模、周遊ルートの舗装・手すり等、町道の車道・歩道等、案内板 ④その他 ・</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	天真名井	皇子橋周辺	くしふる周辺 バスセンター周辺	①ルート設定 ・河川形状、川幅 ②施設配置 ・管理用通路、川に降りる場所、広場、休憩施設 ③施設デザイン、規模等 ・護岸形状、管理用通路の幅員、広場の規模、休憩施設のデザイン ④その他 ・	①ルート設定 ・観光施設周遊ルート、観光客の導線 ②施設配置 ・駐車場、行先案内板、施設説明板、休憩施設 ③施設デザイン、規模等 ・駐車場の規模、周遊ルートの舗装・手すり等、町道の車道・歩道等、案内板 ④その他 ・		19:30~20:30 (60分)
天真名井	皇子橋周辺	くしふる周辺 バスセンター周辺						
①ルート設定 ・河川形状、川幅 ②施設配置 ・管理用通路、川に降りる場所、広場、休憩施設 ③施設デザイン、規模等 ・護岸形状、管理用通路の幅員、広場の規模、休憩施設のデザイン ④その他 ・	①ルート設定 ・観光施設周遊ルート、観光客の導線 ②施設配置 ・駐車場、行先案内板、施設説明板、休憩施設 ③施設デザイン、規模等 ・駐車場の規模、周遊ルートの舗装・手すり等、町道の車道・歩道等、案内板 ④その他 ・							
	・検討結果とりまとめ	20:30~20:40 (10分)						
4. 班別発表	・各班から取りまとめ結果を報告	20:40~20:55 (15分)						
5. 次回以降の予定について	・シンポジウム・委員会次回WSの開催連絡	20:55~21:00 (5分)						

## 2. ワークショップの進め方について

ワークショップ全体の流れ



第4回ワークショップの流れ

次 第	内 容	所要時間	備 考
1. 挨拶・はじめに	・挨拶 ・ワークショップ全体の流れについて	19:00~19:10 (10分)	
2. ワークショップ 結果整理	・これまでのワークショップの結果を整理・報告 →委員会提出資料の再整理	19:10~19:20 (10分)	
3. 委員会での指摘 事項について 【報告・確認】	委員会からの指摘事項の報告 →意見整理シートの説明	19:20~19:40 (20分)	
4. 意見交換会	かわづくり関連 ①石積み護岸への変更による河川幅への影響について →粗度係数の変化に伴う河川の必要幅を説明 ②天真名井の水量確保について →委員会から得られた天真名井の水量確保の方針について、概略 図等で説明 ③細部の条件確認 →模型での計画反映事項とその他細部事項の確認	19:40~20:10 (30分)	
	まちづくり関連 ①散策路及び町道の整備方針について →今後の進め方について、スケジュール等を高千穂町より説明 ②散策路整備イメージについて →観光マスタープラン等の資料や他地区の事例等をもとに整備 イメージを提示し、意見交換を行う ③町道整備イメージについて →他地区の事例や高千穂町の道路整備イメージを提示し、意見交 換を行う	20:10~20:50 (40分)	
5. 次回以降の予定 について	・次回以降のWS、委員会開催予定について説明を行う	20:50~21:00 (10分)	

3. ワークショップの結果整理（第1～3回までの総まとめ）

	ゾーンの位置づけ	天真名井周辺	皇子橋周辺	くしふる周辺	バスセンター周辺	その他
1班 天真名井周辺	かわまちづくり計画の中心として、水と歴史にふれられる空間	<ul style="list-style-type: none"> <li>○天真名井前 <ul style="list-style-type: none"> <li>・パラベットの撤去（神輿台と神事スペースは残す（宮司さんにも確認））</li> <li>・河床を少し上げ（滞筋）</li> </ul> </li> <li>○上流側 <ul style="list-style-type: none"> <li>・川幅を広げて河床で遊べる空間の確保</li> <li>・河床にアプローチしやすい階段、飛び石の設置</li> <li>・左岸と右岸を結ぶ橋の整備（太鼓橋をイメージ）</li> <li>・休憩所・広場の確保</li> </ul> </li> <li>○管理用通路 <ul style="list-style-type: none"> <li>・両岸に配置（左岸は軽トラ程度への対応）</li> </ul> </li> <li>○植樹 <ul style="list-style-type: none"> <li>・四季を感じられる花木の植樹</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○天真名井を中心して多方面からアクセスできるように誘導（案内板の整備等）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○アマテラス鉄道とくしふる神社周辺を周遊するような関連付け</li> <li>○天真名井を中心して多方面からアクセスできるように誘導（案内板の整備等）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○天真名井を中心して多方面からアクセスできるように誘導（案内板の整備等）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○観光客が興味深さを知って天真名井を訪れてくる</li> <li>○神聖な水で、神聖な場所としての位置づけが重要</li> <li>○天真名井が成り立ちを知りたくなるような雰囲気、神秘的な場所としての演出</li> <li>○観光客だけでなく住民を含めた憩いの場の整備 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゆっくり休憩しながら歩ける空間</li> <li>・地元も利用しやすい空間（維持管理もしやすい）</li> </ul> </li> <li>○天真名井と高千穂峡つながりは重要（天真名井の水は高千穂峡にな流れている）</li> </ul>
2班 皇子橋周辺	まちなかと天真名井周辺をつなぎ、観光客と地元住民が共に楽しめる親水空間	<ul style="list-style-type: none"> <li>○天真名井との連携軸を整備（川沿いを中心とした導線）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○左岸側を中心に護岸を緩傾斜化</li> <li>○皇子橋左岸付近に朝市ができる空間（広場整備）とトイレの整備</li> <li>○観光客が立ち寄れる空間</li> <li>○夜でも安全に利用できる空間</li> <li>○近傍に不足している公園としての機能を確保</li> <li>○駐車場は設置しない（まちなか利用）</li> <li>○遊歩道沿いにベンチを配置</li> <li>○右岸側への桜などの植樹</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生活利用も可能な連携軸として整備（地域住民も利用しやすい導線）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○まちなかとの連携軸として整備（観光客が入りやすい導線）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○皇子橋付近だけではなく天真名井との連携が必要不可欠</li> <li>○昔の賑わいを再生したい</li> <li>○中心市街地では公園機能が不足</li> </ul>
3班 くしふる周辺	天真名井を起源とした神々の歴史と自然を感じられる空間	<ul style="list-style-type: none"> <li>○利用者の利便性に配慮した周遊ルートの整備 <ul style="list-style-type: none"> <li>・神代川右岸側遊歩道整備</li> <li>・左岸・右岸をつなぐ橋の整備</li> <li>・荒立神社参道から市道を迂回しないルートの確保</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○主要ポイントにおける誘導施設の設置 <ul style="list-style-type: none"> <li>・くしふる神社</li> <li>・荒立神社</li> <li>・天真名井</li> <li>・国道220号一本木交差点</li> </ul> </li> <li>○神々を巡るルートの特徴づけ（記紀に基づくルート設定等）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○主要施設を回るのみの短時間コース設定 <ul style="list-style-type: none"> <li>・高千穂碑や四皇子峰を通らないコース</li> <li>・上記に伴う駐車場整備（荒立神社）</li> </ul> </li> <li>○天真名井からくしふる神社に至る遊歩道周辺の景観整備（擁壁の修景等）→石垣</li> <li>○神々を巡るコースの特徴づけ（記紀に基づくコース設定等）</li> <li>○コース別に応じた案内板の設置</li> <li>○遊歩道整備は最小限とし、自然に近い形を残す（危険な箇所や歩きにくい箇所のみを整備）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○バスセンターエリアとの連携軸整備（金比羅宮へのアクセス道路）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○荒立神社の裏山整備（個人主導）との連携</li> <li>○駐車場はまちなかを歩いてもらえるように配置（距離の長い遊歩道等については高齢者に配慮して最小限の整備）</li> </ul>
4班 バスセンター周辺	観光客の移動拠点として、歴史施設などの情報を発信する空間	<ul style="list-style-type: none"> <li>○天真名井・くしふる周辺への遊歩道整備 <ul style="list-style-type: none"> <li>・天真名井やくしふる周辺との連携は、神代川の遊歩道でつなぐ動線がよい（金比羅側のルートは傾斜が急なため）</li> <li>・川沿いを歩いて、後藤商店へ出るルートがよい</li> </ul> </li> <li>○自然の形を生かした遊歩道整備 <ul style="list-style-type: none"> <li>・舗装等、大規模な遊歩道整備は行わず、安全面に配慮した最小限の整備</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○皇子橋周辺の管理用通路と一体化した遊歩道整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○天真名井・くしふる周辺への遊歩道整備 <ul style="list-style-type: none"> <li>・天真名井やくしふる周辺との連携は、神代川の遊歩道でつなぐ動線がよい（金比羅側のルートは傾斜が急なため）</li> <li>・川沿いを歩いて、後藤商店へ出るルートがよい</li> </ul> </li> <li>○自然の形を生かした遊歩道整備 <ul style="list-style-type: none"> <li>・舗装等、大規模な遊歩道整備は行わず、安全面に配慮した最小限の整備</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○高千穂町内観光の移動拠点整備 <ul style="list-style-type: none"> <li>・町立病院跡地を駐車場として、観光客の移動拠点としての整備</li> </ul> </li> <li>○天真名井・くしふるエリアとの接続 <ul style="list-style-type: none"> <li>・神代川沿いの遊歩道でつなぐ動線がよい（金比羅側のルートは傾斜が急なため）</li> <li>・川沿いを歩いて、後藤商店へ出るルートがよい</li> </ul> </li> <li>○金比羅宮（地蔵山）への展望所設置</li> <li>○遊歩道整備は最小限とし、自然に近い形を残す（危険な箇所や歩きにくい箇所のみを整備）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○マップの作成 <ul style="list-style-type: none"> <li>・外国語に対応した、コースがわかりやすいマップの作成（天孫降臨をイメージできるマップ）</li> </ul> </li> <li>○町道整備について <ul style="list-style-type: none"> <li>・歩道と車道の段差をなくし、幅員を2.0m程度確保する</li> </ul> </li> <li>○駐車場はまちなかを歩いてもらえるように配置（距離の長い遊歩道等については高齢者に配慮して最小限の整備）</li> </ul>

#### 4. 委員会での指摘事項について

##### 委員会結果一覧表

第5回神代川河川再生計画検討委員会（開催日：平成26年11月4日） 対応方針一覧表

：ワークショップに係る項目

No.	分類	検討項目	検討内容（課題）	対応方針
①	かわづくり	天真名井付近の計画について	現在のパラペットを撤去し、神事が出来るスペースを確保する。	神事スペースについて、後藤宮司に確認する。
②		天真名井の巨木について	パラペットを撤去した場合、枝を支えている支柱に影響があるため、対応を考える必要がある。	支柱の付け替えについて、樹木医を交え検討する。
③		護岸形状について	護岸形状を石積みに変更することによる影響（河川幅）について、住民への説明が必要である。	粗度係数の変化による影響を整理し、ワークショップで説明を行う。
④	まちづくり	町としての取り組みについて	かわづくりに対して、まちづくりの整備イメージが概念的となっているが町としてどの程度取り組むつもりなのか。 ワークショップにおいて町としての取り組み方針を提示し、より具体的な整備イメージとなるような議論できる環境を整える必要がある。	今回の計画に対しては、当初からの計画とおり遊歩道の整備、案内板の設置を考えている旨の説明を行う。
⑤		まちづくりの方向性について	町全体の計画もあるが、かわまちづくりとして事業が進められているため、早急に「町全体としてどうするか」「その中でかわまちづくりの事業範囲を先行して取り組む」として進める必要がある。 事業実施については、都市再生整備計画事業等、補助事業を活用し、事業についても計画の前倒しとすることが望ましい。	平成27年度に都市再生整備計画事業申請のためのまちづくり計画を策定予定であり、この中で広く町民に意見を募り、これからの高千穂町としてまちづくりの方向性を決める。この中で神代川のまちづくりも含めて検討する。かわまちづくり計画の中ではH28年度からの計画策定のスケジュールになっているが、1年前倒しとなる旨の説明を行う。
⑥		道路整備のイメージについて	道路整備についてコンセプトや整備方針の整理が必要である。 整備イメージとしては、幅員構成や舗装材のあり方、その他付帯施設等、ワークショップでの検討が必要である。	道路整備については、一部県道も含まれていることからワークショップの意見も検討しつつ、町全体の整備計画、まちづくりの中で進めていく予定である旨の説明を行う。
⑦		散策ルート of 整備について	ゾーンをまたぐ散策ルートが途切れているので、一体化すること。	皇子橋～天真名井間のルートが分断されている箇所を接続し、修正案についてワークショップで確認する。
⑧	地下水・河川水	天真名井の水量について	天真名井の水量確保の方針について、計画を整理すること。（雨水浸透枡による湧水確保は困難と考えられるため、近傍湧水と白水水神からのくみ上げとする）	天真名井の水量確保について近傍湧水と白水水神からのくみ上げを行う内容を整理し、ワークショップで説明を行う。
⑨		水循環について	近傍湧水のくみ上げとなると、基本理念における「水循環の復活」に対する対応としては不十分ではないか。	天真名井に関しては、現実的にくみ上げによる対応が現実的である。 河川水については、現在、天真名井に導水している水を上流側で落とす、農業用水の活用する等、維持用水確保の面からも引き続き検討を行う。
⑩		神代川上流の利用状況について	神代川上流の用水利用状況について整理すること。	上流側の用水の利用、流入状況についてとりまとめる。
⑪	その他	起工式について	高千穂町の住民が一人でも多く関わることのできるような起工式の計画をすること。	ワークショップにおいて、設計、施工時の住民の関わり方について協議を行う。
⑫		通りの名称について	町道や散策ルートの名称を決めた方が良いのではないか。	整備ルートや整備方針が決定後に、ワークショップで名称を協議する。（『天孫降臨』をキーワードに）
⑬		ワークショップの進め方について	まちづくりでは班分けにより意思の統一が図られていないようなので、ワークショップの進め方に工夫がいるのではないか。	第4回以降については班分けは行わず、合同での意見交換とする。

※⑪⑫については次回ワークショップの議題として取り扱う予定

(1) 石積み護岸への変更による河川幅への影響について (委員会指摘事項③)

- ・護岸形状を現在のコンクリート張りから石積みや貼り石等の自然護岸に変更する場合は、川幅を広げる必要があります。
- ・川幅が広がったり狭くなったりすると、流速が変化したり水位が変動する等、不均一な流れとなります。
- ・川の流れは下流側や上流側の河道形状によって変化するため、河川全体で流下能力の検討を行う必要があります。



・ワークショップで提案された河川形状をもとに、流量計算(不等流計算)を行い、30年に1度発生する可能性のある洪水に対して安全な川となるよう河道計画を行う。

■現状(コンクリート張り)

- ・計画流量: 55t/s
- ・粗度係数: 0.02

※粗度係数: 河川の水が河床や河岸に触れる際の抵抗値 (大きくなるほど水が流れにくい)

(A-A'断面模式図【現況】)

民家側 天眞名井側

(現況写真)

■計画(石積み・貼り石)

- ・計画流量: 55t/s
- ・粗度係数: 0.035

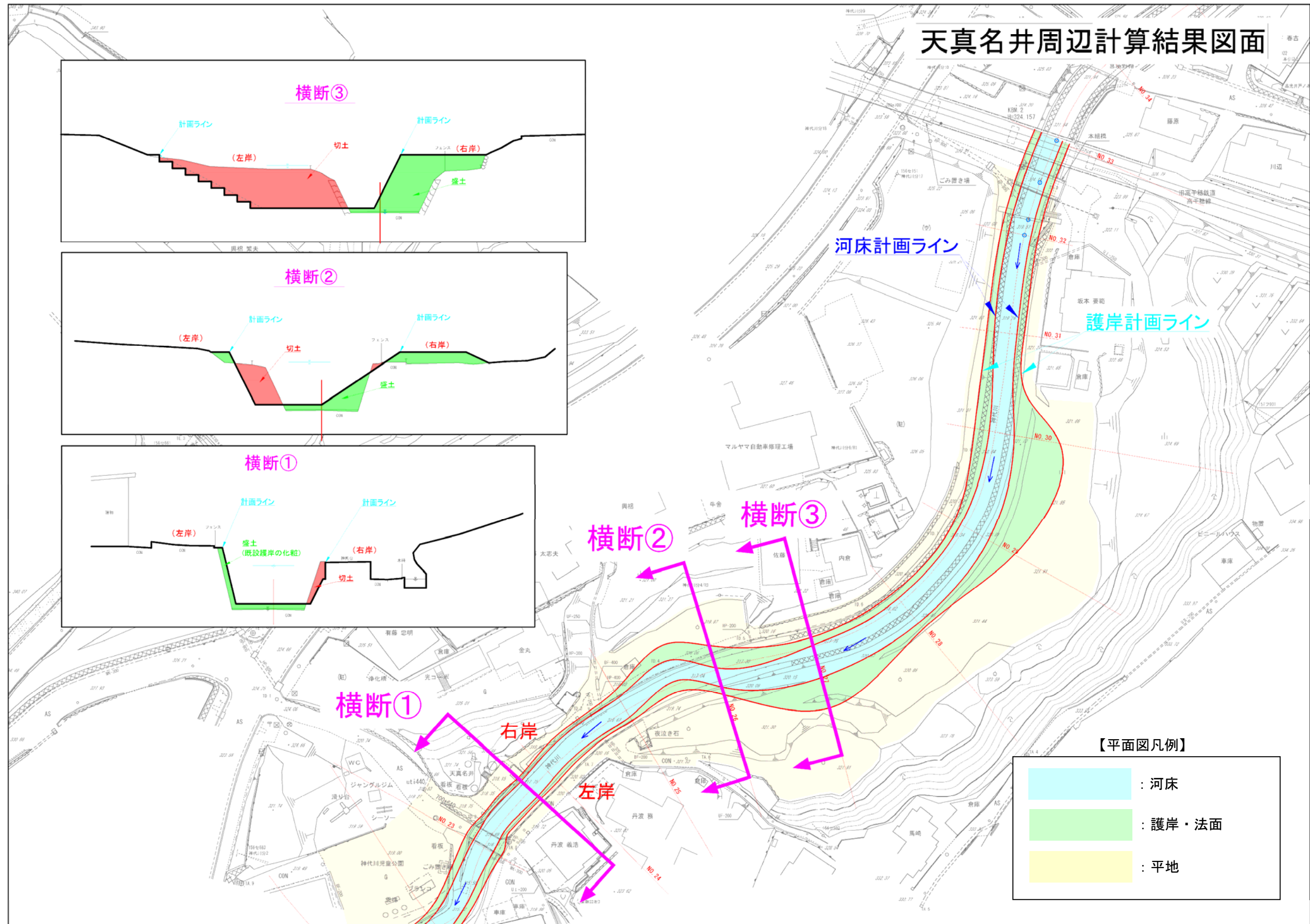
コンクリートから自然護岸へ形状が変わることで水が流れにくくなるため、川幅の拡幅が必要となる。

(A-A'断面模式図【計画】)

民家側 天眞名井側

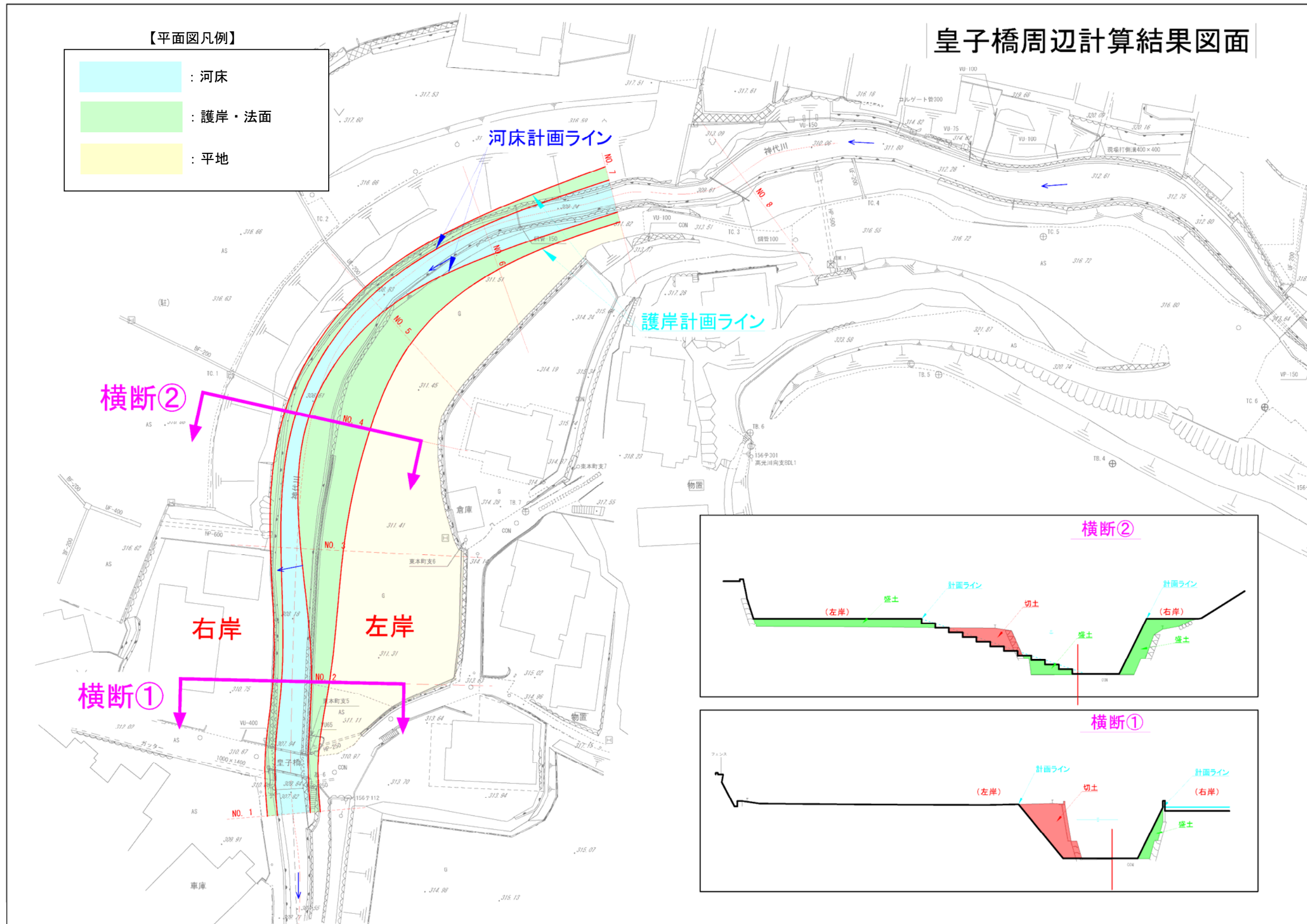
(計画イメージ写真)

■現況流下能力の確認（天真名井周辺）

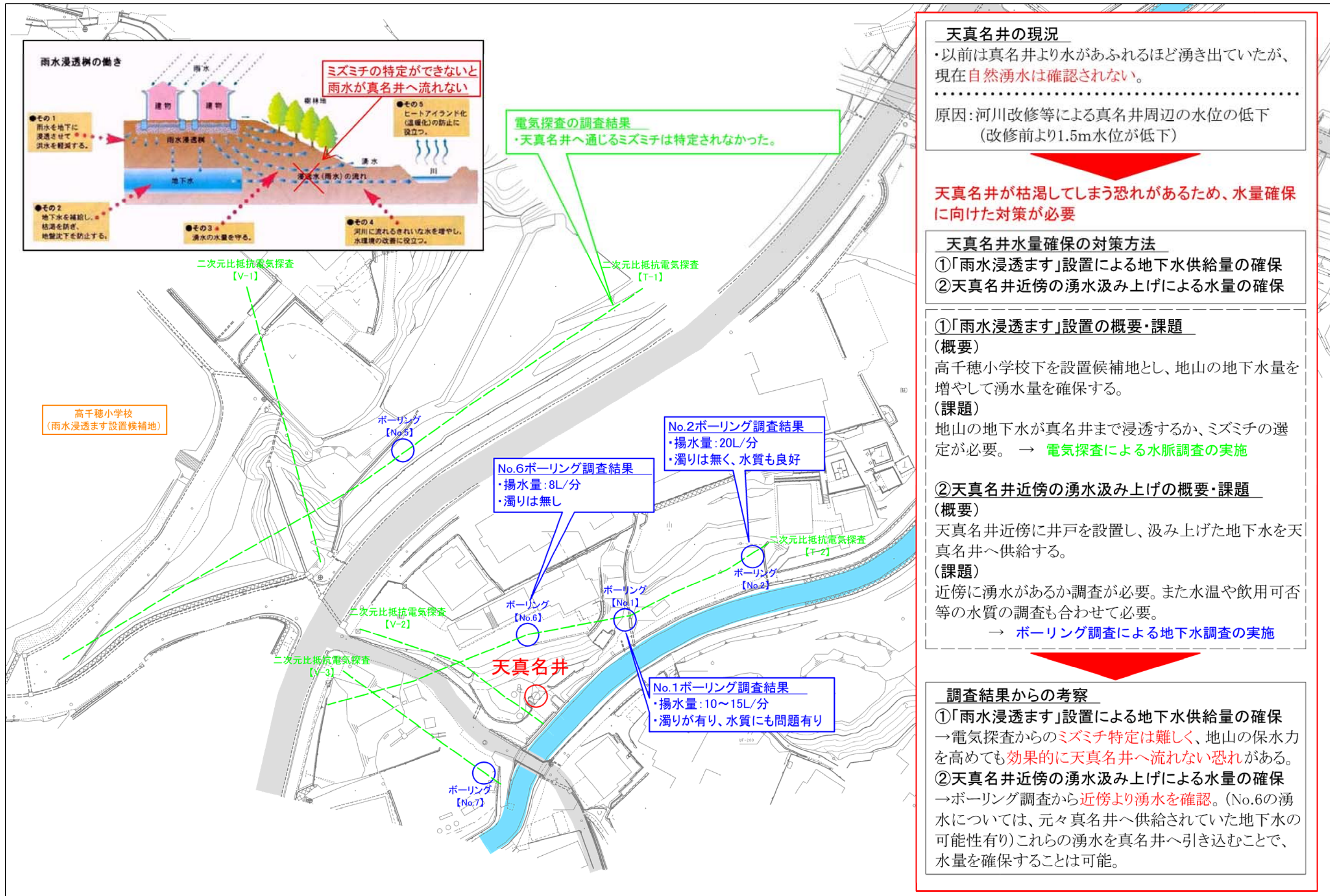




■現況流下能力の確認（皇子橋周辺）



(2) 天真名井の水量確保について (委員会指摘事項⑧⑨)



**天真名井の現況**  
 ・以前は真名井より水があふれるほど湧き出していたが、現在自然湧水は確認されない。  
 .....  
 原因: 河川改修等による真名井周辺の水位の低下 (改修前より1.5m水位が低下)

天真名井が枯渇してしまう恐れがあるため、水量確保に向けた対策が必要

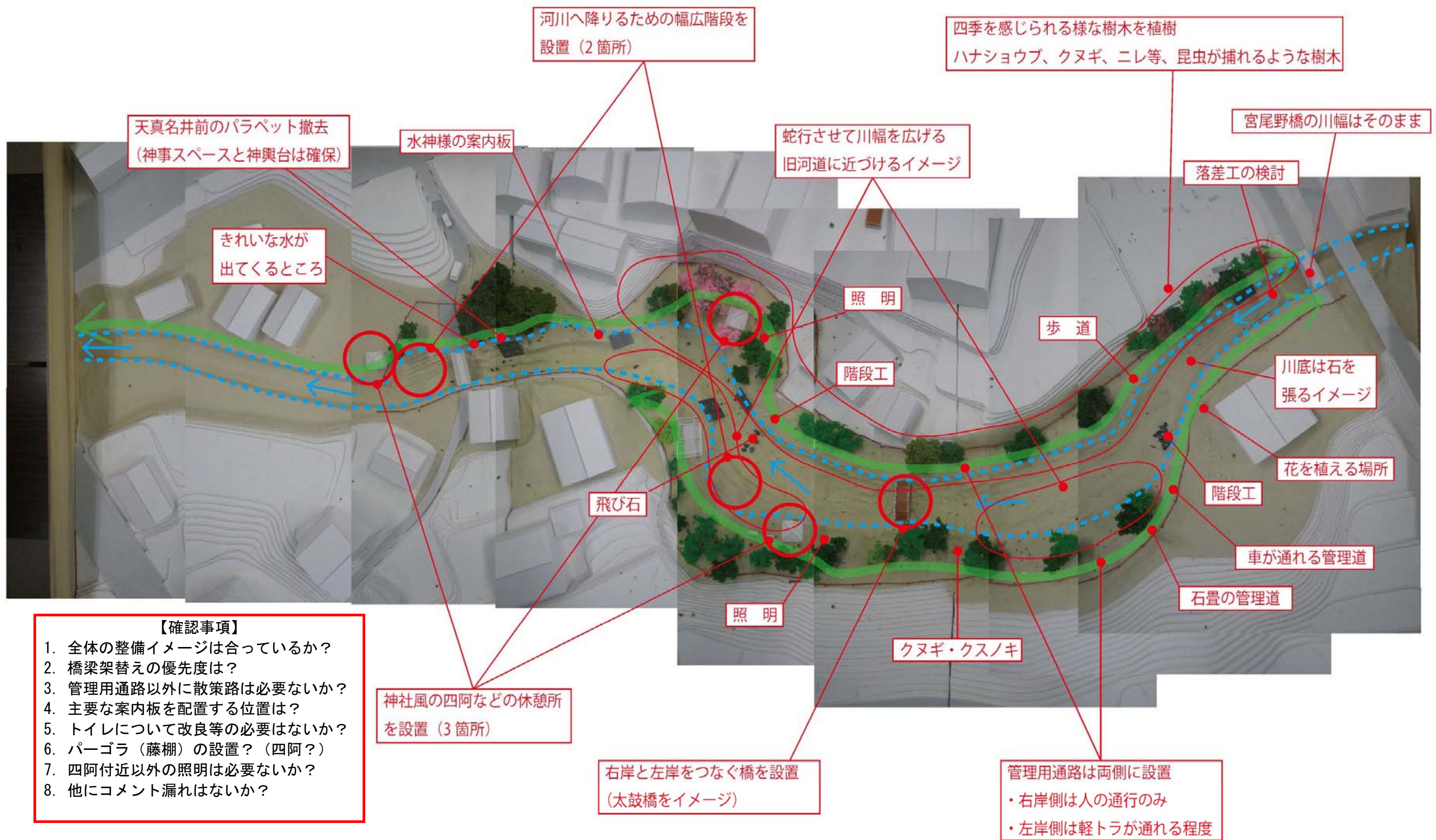
**天真名井水量確保の対策方法**  
 ①「雨水浸透ます」設置による地下水供給量の確保  
 ②天真名井近傍の湧水汲み上げによる水量の確保

**①「雨水浸透ます」設置の概要・課題**  
 (概要)  
 高千穂小学校下を設置候補地とし、地山の地下水量を増やして湧水量を確保する。  
 (課題)  
 地山の地下水が真名井まで浸透するか、ミズミチの選定が必要。 → 電気探査による水脈調査の実施

**②天真名井近傍の湧水汲み上げの概要・課題**  
 (概要)  
 天真名井近傍に井戸を設置し、汲み上げた地下水を天真名井へ供給する。  
 (課題)  
 近傍に湧水があるか調査が必要。また水温や飲用可否等の水質の調査も合わせて必要。  
 → ボーリング調査による地下水調査の実施

**調査結果からの考察**  
 ①「雨水浸透ます」設置による地下水供給量の確保  
 → 電気探査からのミズミチ特定は難しく、地山の保水力を高めても効果的に天真名井へ流れない恐れがある。  
 ②天真名井近傍の湧水汲み上げによる水量の確保  
 → ボーリング調査から近傍より湧水を確認。(No.6の湧水については、元々真名井へ供給されていた地下水の可能性有り)これらの湧水を真名井へ引き込むことで、水量を確保することは可能。

### ③細部の条件確認について

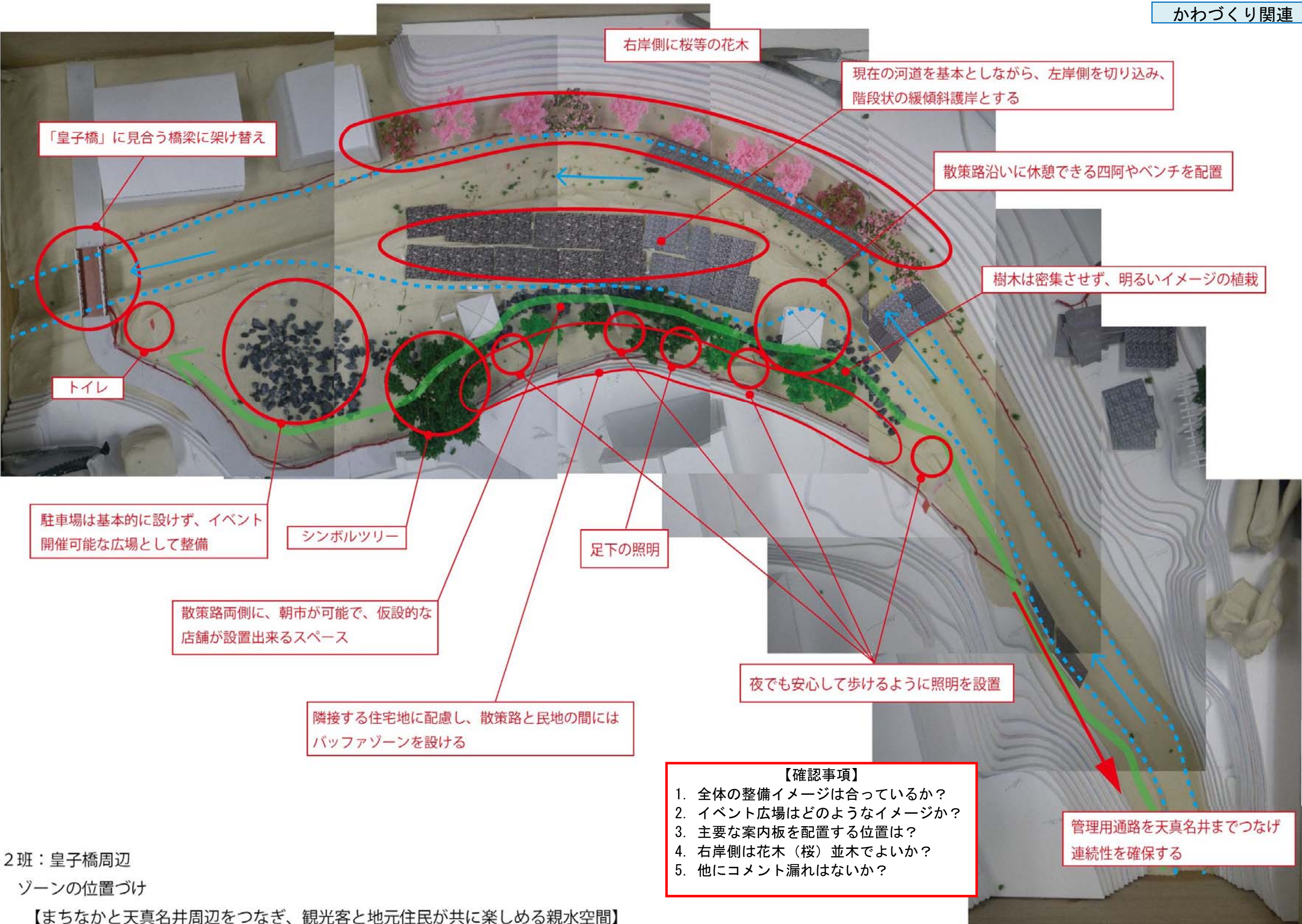


- 【確認事項】**
1. 全体の整備イメージは合っているか？
  2. 橋梁架替えの優先度は？
  3. 管理用通路以外に散策路は必要ないか？
  4. 主要な案内板を配置する位置は？
  5. トイレについて改良等の必要はないか？
  6. パーゴラ（藤棚）の設置？（四阿？）
  7. 四阿付近以外の照明は必要ないか？
  8. 他にコメント漏れはないか？

1班：天眞名井周辺

ゾーンの位置づけ

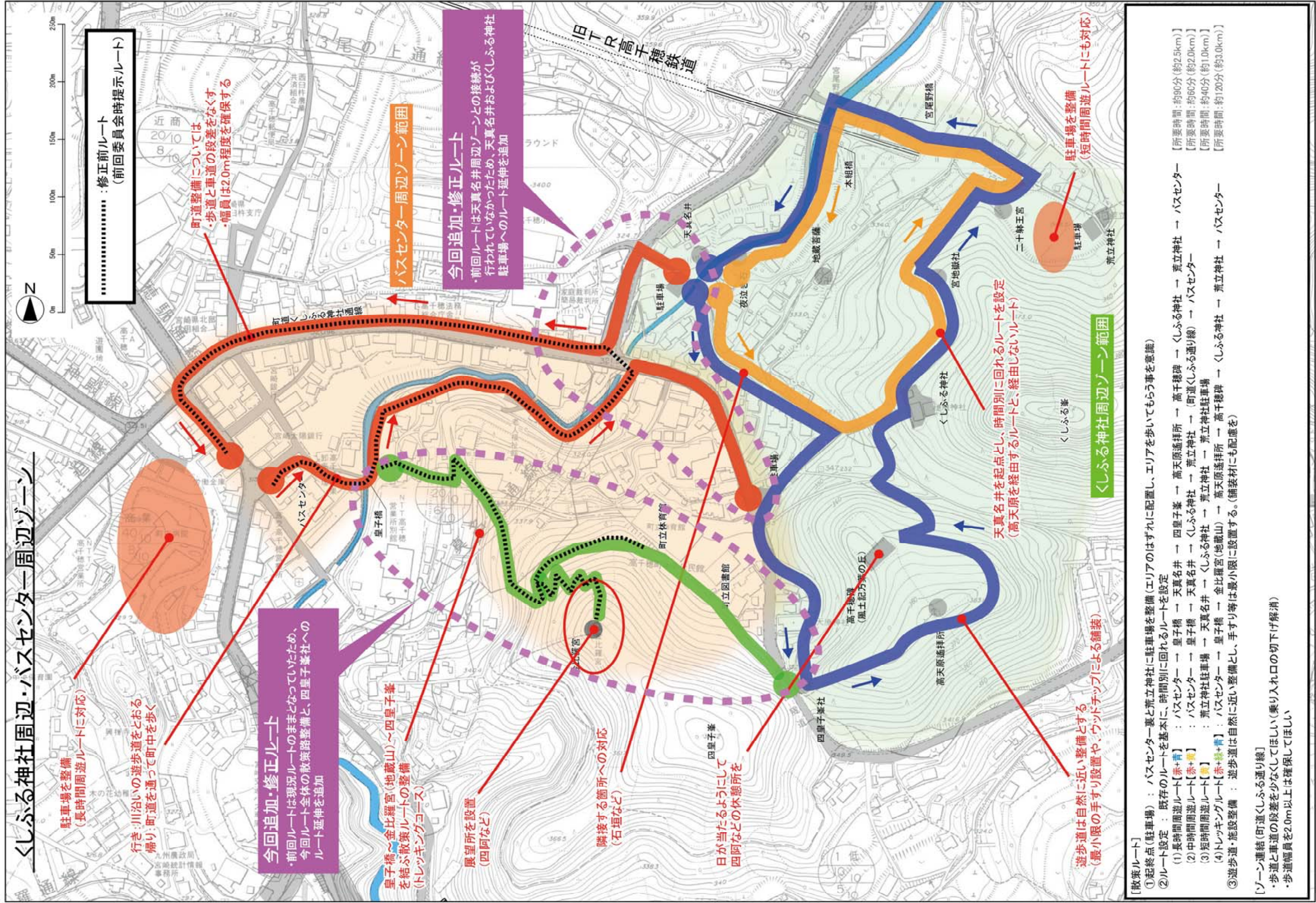
【かわまちづくり計画の中心として、水と歴史にふれられる空間】



2班：皇子橋周辺  
ゾーンの位置づけ

【まちなかと天真名井周辺をつなぎ、観光客と地元住民が共に楽しめる親水空間】

(4) 町道の整備方針について (委員会指摘事項④～⑦)



【ゾーン連結(町道くしふる通り線)】  
 ・歩道と車道の段差を少なくしてほしい(乗り入れ口の切下げ解消)  
 ・歩道幅員を2.0m以上は確保してほしい

■高千穂町観光マスタープランより抜粋

2-2 観光地としての基盤整備

2-2-1 観光施設の整備

1. サイン整備

町内の観光施設や案内所等のスポット(約 70 箇所)について、以下の項目について必要性を検討する。

- 町外(郡外)からの案内
- 町外(郡内)からの案内
- 幹線道路の案内
- 支線道路の案内
- 施設付近の案内
- 総合案内板への掲載
- 施設の説明看板
- 歩行者用の看板
- シーズン臨時案内板

新規に設置するサインについては、「神都 高千穂」のイメージにふさわしく、景観に溶け込むデザインとする。

※サイン

万人に向けた適切な情報伝達を目指して、公共施設などに設置される案内標識



●町外からの入込用案内

町外からの入込に関しては、まず高千穂峡を目指す観光客が多いことから、国道218号線、国道325号線の町境付近から「高千穂峡」のサイン表示を行う。



●町内に入ってから案内

町内の数箇所に総合案内板を設置し、観光施設の位置関係や距離などが

一目でわかるようにする。総合案内板には二次元バーコード(QRコード等)を掲載し、ウェブ上でさらに詳細な情報が見られる仕組みにする。

施設ごとに誘導ルートを決め、各交差点にサイン表示を行う。オンシーズンには臨時サインを設置、複数のルートに分散させることで、渋滞の緩和を図る。主要観光施設以外のスポットについても、支線への分岐点や施設付近でのサイン表示を行う。



●歩行者用の案内

まちなかに歩行者用の総合案内板と、方向表示サインを設置。目的地に迷わず行ける、旅人に優しいサイン整備を行う。

●各施設の詳しい案内

各施設には案内看板を設置、二次元バーコードの活用等デジタル環境を有効利用して、観光客の要求に応じて、その場で詳細情報が得られるような環境を整備する。



●高千穂から出るときの案内

次の目的地への適切なサイン表示をし、最後まで気持ちよく高千穂町を後にしてもらう。

特に、熊本県に向かう際は、「松橋」方面と「阿蘇」方面でルートが異なるため、迷うことのないように案内する。



## 2. 主要観光地の整備

【高千穂峡】

- 総合案内板、施設の説明看板の充実、多言語化
- 遊歩道の安全確保とバリアフリー化
- 駐車場の確保、整備
- 休憩施設（場所）の整備
- 樹木の手入れ（紅葉する樹の植栽）
- 池など水辺の再整備
- 淡水魚水族館の利活用の検討
- 観光案内所の設置
- 上下水道施設・合併浄化槽の整備
- 軽食、売店、土産物店の充実
- 宿泊者への優先・優待券（ポート等）
- アクセス道の整備
- 雨天時を含む、楽しく遊べる施設整備



**【国見ヶ丘】**

- 総合案内板、施設の説明看板の充実、多言語化（国見ヶ丘のいわれの説明）
- 景観の整備（刈干場を保存するための野焼き、樹木の伐採と手入れ、刈干とうびの設置等）
- 駐車場の確保、整備
- 街灯の設置
- 古いトイレの改修の必要性の検討
- 水道施設の整備



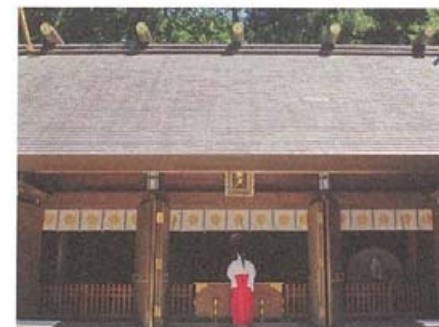
**【高千穂神社】**

- 境内のバリアフリー化の検討
- 総合案内板、施設の説明看板の充実、多言語化の検討
- 景観整備（立木等の手入れ、看板の統一）の検討
- 自然遊歩道の整備の検討
- 木漏れ日等のある休憩所の整備の検討



**【天岩戸神社】**

- 総合案内板、施設の説明看板の充実、多言語化・駐車場の確保、整備の検討
- 東本宮への誘導の検討
- 岩戸の街の活性化の検討
- 食べあるき環境の推進の検討
- 休憩所の整備の検討
- 天安河原遊歩道のバリアフリー化の検討



**【くしふる神社・神話史跡コース】**

- 総合案内板、施設の説明看板の充実、多言語化（天孫降臨ゆかりの地としての案内）の検討
- 駐車場の確保、整備の検討
- 神話史跡コース遊歩道の再整備の検討
- 景観整備（樹木・立木等の手入れ、展望の確保）の検討
- 天真名井・神代川の保全、整備の検討
- 木漏れ日等のある休憩所の整備の検討
- トイレの整備の検討
- 街灯の整備の検討
- パンフレットの整備、多言語化の検討





## 5. まちなか観光の推進

### ●サイン整備

歩行者用の総合案内板や施設毎の方向表示、説明板を整備。二次元バーコード（QRコード等）の活用により、町ホームページと連携して、最新かつ詳細な情報を得られるしくみ作りをする。

### ●統一された景観

景観条例の制定を視野に入れ、車道や歩道の拡幅、街路樹の植栽、電柱の移動、街灯を含む街並みの美化、建物の外観や看板、のれん等の統一、装飾、公民館による季節ごとの飾り付けの継続等により、「神都 高千穂」のイメージにあった景観整備を行う。

### ●まちなか観光の基盤整備

ゆったりとくつろげる憩いと交流の休憩所や、木漏れ日の休憩所の整備、空き店舗を活用した、お土産販売店・飲食店の拡充や、体験スペース、交流スペースの新設、パンフレット整備（多言語、お店紹介、お楽しみ抽選など）、食べあそび環境の整備を行い、まちあるき観光を推進する。



### ●住民の意識向上

地域住民がおもてなしの心を持ち、観光客が気持ちよくまちなか観光を楽しめる雰囲気づくりを行う。

### ●高千穂神社〜くしふる神社間の通りのイメージアップ

まちなかにある史跡や神話ゆかりの地をPR。神々の足跡をたどり、神話のロマンに触れられる道として、イメージアップを図る。

### ●がまだせ市場の拠点化

YOKAROバスの停留所があり、福岡・熊本方面からのバス利用者にとって、高千穂の玄関口となる「がまだせ市場」をまちなか観光の拠点とする。総合案内所機能の充実や、バス利用者向けのプロモーション、お土産品の宅配窓口の充実、お店紹介掲示板の整備、高千穂町内観光周遊バス等の整備を行う。



## 6. 観光駐車場、観光トイレ、休憩所等の整備

自動車や貸し切りバスで来た観光客のための駐車場、トイレ、休憩スペースを整備し、行楽シーズンの利便性向上を図る。

汲み取り式のトイレをなくし、和式トイレを洋式に改修。個室の拡張やウォシュレットの導入により、快適な空間づくりを行う。



■まちづくりに関する街路整備事業の事例－1（歩車共存型）

①伊勢街道 外宮前地区（三重県伊勢市）

地区概要	整備前	整備後
<p>JR 伊勢市駅から豊受大神宮（外宮）へとつながる外宮参道の沿道商店街で、各種店舗や住宅などが混在している地区。</p>		 
<p><b>整備概要</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歩車道を石畳舗装（色分けによる歩車道の分離）</li> <li>・歩道のフラット化</li> <li>・ベンチの設置</li> <li>・無電柱化</li> </ul>		

②神門通り線（島根県出雲市）


地区概要	整備前	整備後
<p>神門通りは出雲大社への表参道として約100年前に開設され、沿道は門前町として栄えた。しかし、モータリゼーションに伴い衰退してきていた通りである。</p>		  <p>幅員構成（整備前）</p> <p>幅員構成（整備後）</p>
<p><b>整備概要</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歩車道を石畳舗装（色分けによる歩車道の分離）</li> <li>・歩道はフラット（整備前同様）</li> <li>・車道幅員を減少し、歩道を拡幅（車線分離無し）</li> <li>・無電柱化</li> </ul>		

■まちづくりに関する街路整備事業の事例－2（歩車分離型）

①三春町大町地区 荒町新町線（福島県田村郡三春町）

地区概要	整備前	整備後
<p>荒町新町線は三春町の中心市街地と駅を結ぶ幹線道路で、「三春町景観条例」「まちづくり協定」に基づき景観に配慮した整備が行われている。</p>		 
整備概要		
<ul style="list-style-type: none"> <li>歩道を石畳舗装</li> <li>歩道をフラット化 (縁石・車止めによる歩車道分離)</li> <li>無電柱化</li> </ul>		

②<sup>ゆすはらちく</sup> 栲原地区国道 440 号拡幅（高知県栲原町）

地区概要	整備前	整備後
<p>栲原地区は豊かな自然環境と幕末の史跡がある地域であり、四季を通じて多くの観光客が訪れている。</p>		 <div data-bbox="2208 1451 2858 1885" style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>【国道 440 号の拡幅に関連した景観づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 国道 440 号は、従前 3.5m 程度のものを 14m に拡幅されました。これに関連して、まちづくり交付金により、地区内各箇所の道路、街路灯・街路樹、木橋、風車モニュメント、電線地中化・裏配線を整備しました。</li> <li>● まちづくり交付金初年度に、提案事業にて「たくみの会」の活動を支援しました。そのなかで、街路灯の試験施工を行い、4～5 種類の街路灯を試験的に立てて、どれが良いか選定が行われました。</li> <li>● 電線地中化は四国電力・NTT の了解がなかなか出ず、どうしても地中化しか方法がないところのみ地中化しました。その他は裏配線で処理しました。</li> <li>● ストリートファニチャーは、地域の文化・伝統資源である「神楽」をテーマとして整備されています。</li> <li>● 地域の資源である木材を活用するという視点で、木橋の整備などが実施されています。</li> </ul> </div>
整備概要		
<ul style="list-style-type: none"> <li>歩道を石畳舗装</li> <li>歩道をフラット化 (縁石による歩車道分離)</li> <li>無電柱化</li> </ul>		